

農繁期 レポート

令和7年 6月号

栄ファーム

オーナー
産地
水田面積
保証量
形態品種

栄運輸工業株式会社
鳥取県日野郡日南町
18.4アール
玄米828kg
特別栽培コシヒカリ



生産者 三上 惇二さん

6月は、日々の水管理に加えて草刈りにも励んでおります。5月末から日差しが強まり、気温も上がってきたことで、稲の生育は順調に進んでいます。一方で、イネ科の雑草であるヒエの生育も活発になってきたため、除草剤の散布を行いました。梅雨が短かったことには少し驚きましたが、ちょうど中干しの時期とも重なり、田んぼはよく乾いてくれると思います。

6月の作業内容等

1. 中干し(水管理作業)

稲の分けつ(一本の株から複数の茎が出る現象)が進んだ後、過剰な分けつを防ぐため、一時的に田んぼの水を抜きます。分けつが多いと栄養が分散し、収量や品質に影響します。この作業は、有害ガス(硫化水素・メタン)の発生を抑え、酸素を送り、根の活力を高めます。



適度に分けつした状態

2. 除草作業

水田周辺の草刈りも重要です。ヒエなどの雑草が繁茂する畦畔は、稲を食害するカメムシの発生源となるため、周辺の圃場にも迷惑をかけかねません。そのため、定期的に草刈りに動しむ必要があります。



手押し式の刈払機

3. 害獣対策

農業において、害獣対策は重要です。令和5年の稲の全国での被害額は、イノシシが約17億円、シカが約11億円と、毎年深刻な被害があります。写真は、侵入防止用の電気柵です。電気柵は再利用できないので、毎年設置します。



侵入防止の電気柵設置作業

4. 多様な生態系

農作物に被害をもたらす動植物が存在する一方で、ネズミなどの害獣を餌とするキツネのような動物も暮らしています。また、土壌中には、栄養を分解して農作物の成長を助ける昆虫なども多く生息しており、多様な生き物が互いに影響し合いながら、ひとつの生態系を形づくっています。



キツネの赤ちゃん